ボーリング柱状図

調　査　名　一般国道375号(引宇根工区)道路改良事業に伴う測量・地質調査・解析等業務(交付金)

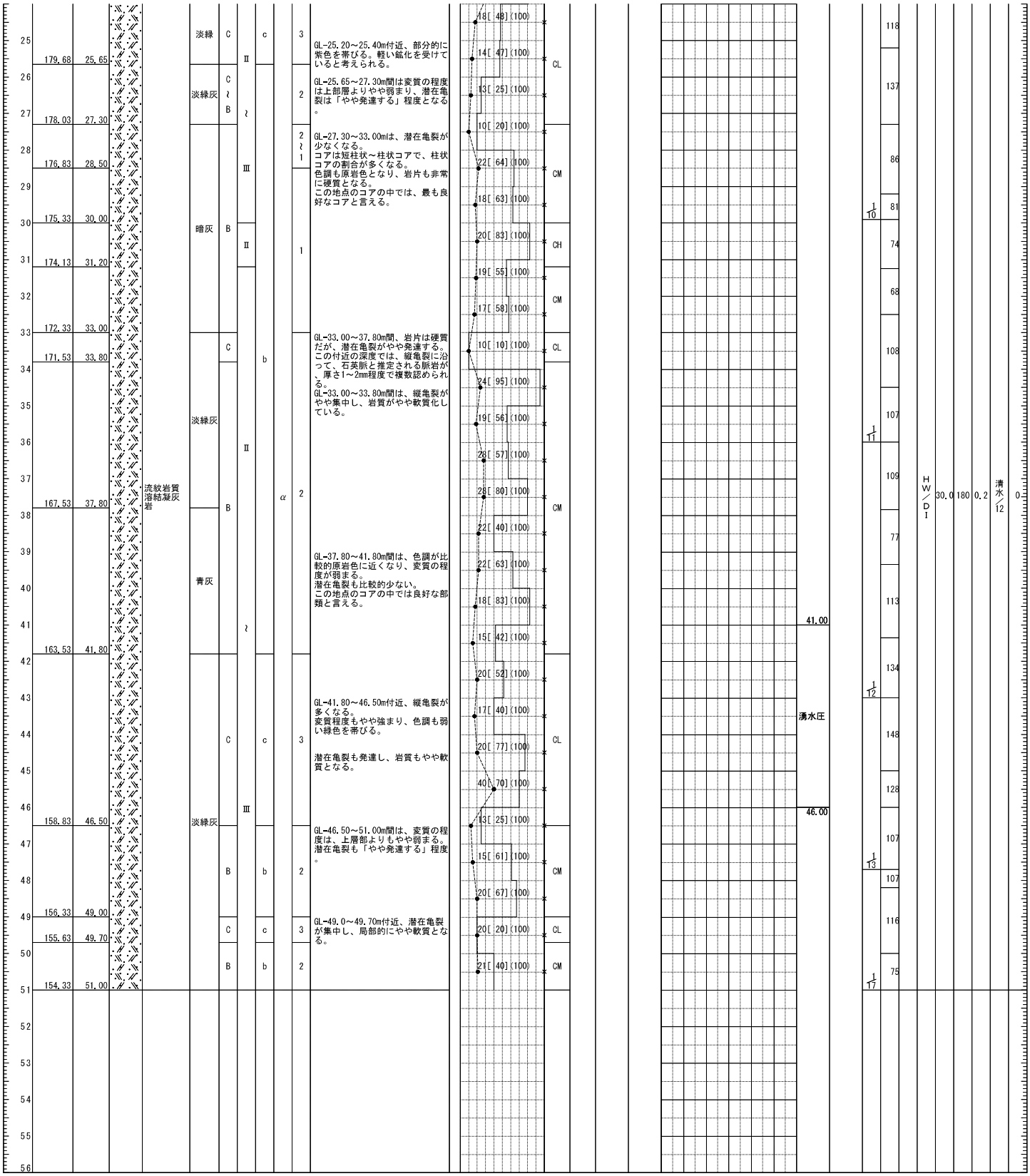
事業・工事名

ボーリングNo.	5	2	3	2	1	6	6	2	0	0	0

シートNo.

ボーリング名	BV-12V	調査位置	広島県三次市日下町地先	北緯	34° 48′ 27.7136″	
発注機関	広島県北部建設事務所	調査期間	平成28年12月19日～平成29年 1月17日	東経	132° 47′ 13.2516″	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	205.33m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	15° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦地下工機D-1型	ハンマー落下用具	半自動型
総掘進長	51.00m								エンジン	ヤンマーディゼルNFD13-EK	ポンプ	東邦地下工機BG-3C

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率(%) 最大コア長 cm RQD[%]	岩級区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度 m	打撃回数／貫入量 回/cm	N値	原位置試験	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 cm/時	孔径／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 MPa	回転数 rpm	送水圧 MPa	送水量 l/分	排水量 l/分
0	205.13	0.20		礫混り砂	暗褐						φ2～5mm位の角礫が20%くらい混じる。 マトリクスは細砂。有機質である。																	
1															1.15～1.45	21/30											
2															2.15～2.45	30/30			12/22								
3											φ75～200mm位の玉石が50%位混じる。 礫種は流紋岩質溶結凝灰岩及び花崗斑岩の新鮮岩を主とする。				3.15～3.44	50/29			12/23								
4				玉石混り砂礫	明褐										4.15～4.45	45/30			12/24								
5											マトリクスは、礫混じり中砂。 N値は30以上が大半だが、10cm毎の内訳では、30以下も多い。				5.15～5.45	34/30											
6															6.15～6.45	29/30											
7	197.73	7.60													7.15～7.40	50/25			12/26								
8							Ⅲ	d	γ	1	全体的には硬質で、コアは短柱状～柱状である。 水平方向と縦方向の亀裂があり。 潜在亀裂も多い。		CL		8.30～8.44	50/14			12/27								
9	196.33	9.00			褐	C									9.15～9.45	24/30											
10	195.33	10.00					Ⅴ				GL-7.6～11.0m付近は褐色に変質している。 特にGL-9.0～10.00m付近は褐色化が著しく、コアは砂礫状～礫状となる。		DL	1/17 9.93	10.05～10.14	50/9											
10					褐灰		Ⅲ	c			GL-10.00～11.00m付近は短柱状コアとなるが、コア内部まで褐色に変色している。		CL	1/11 11.00													
11	194.33	11.00												1/7 11.65													
12											GL-11.00～18.0m付近まで、亀裂部が褐色化している。 特にGL-11.00～12.30mの間は亀裂に沿った岩片の一部まで褐色化が進んでいる。																
13																											
14																											
15				流紋岩質溶結凝灰岩	淡緑灰	B	Ⅱ～Ⅲ	b	β	2	GL-14.6～15.0m付近、部分的に紫色を帯びる。軽い鉱化を受けていると考えられる。		CM															
16																											
17											GL-17.0～18.0m付近部分的に紫色を帯びる。軽い鉱化を受けていると考えられる。																
18	187.33	18.00																									
19											GL-11.0～20.00m間、ハンマーの打撃で軽い金属音がし硬質。ただし、潜在亀裂がやや発達する。																
20	185.33	20.00																									
21					淡緑	C	Ⅲ	c	α	3	GL-20.00～25.65m間、縦亀裂が集中する。これに沿う変質により、岩片が緑色を帯び軟質となっている。 潜在亀裂も集中しており、ハンマーの軽打で容易に細片状に崩れる。		CL															
22																											
23																											
24																											


179.68
25.65
178.03
27.30
176.83
28.50
175.33
30.00
174.13
31.20
172.33
33.00
171.53
33.80
167.53
37.80
163.53
41.80
158.83
46.50
156.33
49.00
155.63
49.70
154.33
51.00
流紋岩質
溶結凝灰
岩
淡緑
淡緑灰
暗灰
淡緑灰
青灰
淡緑灰
GL-25.20～25.40m付近、部分的に紫色を帯びる。軽い鉱化を受けていると考えられる。
GL-25.65～27.30m間は変質の程度は上部層よりやや弱まり、潜在亀裂は「やや発達する」程度となる。
GL-27.30～33.00mは、潜在亀裂が少なくなる。
コアは短柱状～柱状コアで、柱状コアの割合が多くなる。
色調も原岩色となり、岩片も非常に硬質となる。
この地点のコアの中では、最も良好なコアと言える。
GL-33.00～37.80m間、岩片は硬質だが、潜在亀裂がやや発達する。
この付近の深度では、縦亀裂に沿って、石英脈と推定される脈岩が、厚さ1～2mm程度で複数認められる。
GL-33.00～33.80m間は、縦亀裂がやや集中し、岩質がやや軟質化している。
GL-37.80～41.80m間は、色調が比較的原岩色に近くなり、変質の程度が弱まる。
潜在亀裂も比較的少ない。
この地点のコアの中では良好な部類と言える。
GL-41.80～46.50m付近、縦亀裂が多くなる。
変質程度もやや強まり、色調も弱い緑色を帯びる。
潜在亀裂も発達し、岩質もやや軟質となる。
GL-46.50～51.00m間は、変質の程度は、上層部よりもやや弱まる。
潜在亀裂も「やや発達する」程度。
GL-49.0～49.70m付近、潜在亀裂が集中し、局部的にやや軟質となる。
18[48](100)
14[47](100)
13[25](100)
10[20](100)
22[64](100)
18[63](100)
20[83](100)
19[55](100)
17[58](100)
10[10](100)
24[95](100)
19[56](100)
26[57](100)
28[80](100)
22[40](100)
22[63](100)
18[83](100)
15[42](100)
20[52](100)
17[40](100)
20[77](100)
40[70](100)
13[25](100)
15[61](100)
20[67](100)
20[20](100)
21[40](100)
CL
CM
CH
CM
CL
CM
CL
CM
CL
CM
41.00
湧水圧
46.00
118
137
86
81
74
68
108
107
109
77
113
134
148
128
107
107
116
75
HW／DI
30.0
180
0.2
清水／12
0